

戦後81年。平和の灯を絶やさずに

富士見市長 星野光弘

戦後81年を迎えるにあたり、戦争の犠牲となられた全ての方々に哀悼の誠を捧げるとともに、心よりご冥福をお祈り申し上げます。また、世界恒久平和の実現に向け、たゆまぬ努力を続けてこられた方々に対し、心から感謝を申し上げます。

世界に目を向けると、今もなお「戦争」という惨劇が続いており、戦禍により多くの人々の命や日常が奪われている状況にあります。世界で唯一の被爆国である日本でも、戦争の恐ろしさや平和の尊さをこれからも語り継いでいく必要があります。

昨年、私は非核宣言自治体の首長として、長崎県で開催された「被爆80周年長崎原爆犠牲者慰霊平和祈念式典」に出席してまいりました。長崎市長による長崎平和宣言では「戦争の惨禍を繰り返さない」という決意のもと国連が創設されて80年の節目であり、国連憲章の理念に立ち返り、多国間主義や法の支配を取り戻すようにと、全ての国の指導者に対し、力強いメッセージが発信されました。また、式典の司会を務める高校生の2人からは閉会にあたり、「今日の長崎平和宣言を長崎市民の願いとし、私たちは新たな気持ちで、世界恒久平和の実

現に努力していきたい」との思いも語られ、非核宣言自治体の首長として改めて身が引き締まる思いでした。

私たちが今日享受している平和と繁栄は、多くの尊い犠牲と、先人が戦後の歴史を紡いできた歩みの上に築かれたものであることを決して忘れることなく、将来を担う次の世代に戦争の悲惨さと平和の尊さを未来へと語り継いでいかなければなりません。

本市では、昭和62年に「富士見市非核平和都市宣言」を行い、その理念を広げるため、毎年、ピースフェスティバルをはじめとする平和啓発事業を実施しているほか、広島・長崎への原子爆弾投下日と終戦記念日には、市民の皆様が黙とうを呼び掛け、戦争で犠牲となられた方々に哀悼の意を表するなど、平和の尊さを次世代に伝える取り組みを進めております。

市民の皆様におかれましては、終戦の日である8月15日を前に「富士見市非核平和都市宣言」をお読みいただき、平和について改めて一人ひとりがその大切さや尊さを考える機会にしていだだきたいと思ひます。

富士見市非核平和都市宣言

私たちは 何よりも家庭の平和を願い 世界の平和を願っています

しかし 地球をおおっている核兵器は 世界の平和と安全を脅かしています

私たちは 広島・長崎の過ちを 再び繰り返させてはなりません

私たちは 平和憲法を大切にし 世界中の人びとと手をつなぎ核をもつすべての国に「今すぐ核兵器を捨てよ」と訴えます

この市民の声と願いを

非核平和都市 富士見市の宣言とする

1987年7月19日

黙とうを捧げましょう

市では、原子爆弾や第2次世界大戦で犠牲になられた方々のご冥福と、核兵器をなくし平和な世界が実現することを願い、次の日時に防災行政無線を通じ、市民の皆さんに1分間の黙とうのご協力をお願いしています。

【広島市原子爆弾投下日】8月6日午前8時15分

【長崎市原子爆弾投下日】8月9日午前11時2分

【終戦記念日】8月15日正午

